

福岡県立図書館報

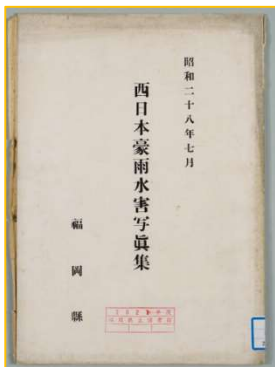
令和4(2022)年3月 No. 77

2022 デジタルライブラリ・コレクション

福岡県立図書館デジタルライブラリに、新たに、昭和28年西日本豪雨水害資料と福岡県立図書館開館100周年記念資料が加わりました。どうぞご利用ください。
(7ページに関連記事があります。)



『昭和28年浮羽郡水害写真帳』(浮羽郡 1953)



『西日本豪雨水害写真集』(福岡県 1953)



開館100周年記念資料
(福岡県立図書館 2018)

目次

令和3年度全国公共図書館研究集会の開催	P 1	レファレンス協同データベース 登録事例の紹介 社会教育功労者表彰、福岡県教育文化表彰	P 5
様々なオンライン事業	P 2	子ども図書館紹介動画の公開 読書推進大会(行橋市大会)の開催	P 6
バリアフリー図書読書体験会の開催	P 3	電子書籍「TRC-DL & LibrariE」の導入	
図書館・学校等向けゲーム貸出 図書の分類のNDC10版への変更	P 4	福岡県内公共図書館デジタルアーカイブ紹介 デジタルライブラリ公開資料	P 7

令和3年度全国公共図書館研究集会の開催

令和3年度全国公共図書館研究集会（サービス部門 総合・経営部門）を福岡県立図書館主管で開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン開催（YouTubeによる動画配信）となりましたが、900名以上の全国の図書館関係者等にお申込みいただき、配信期間の2週間で合わせて約3,000回の視聴がありました。



慶應義塾大学文学部准教授の福島幸宏氏の基調講演

近年、毎年のように全国的に大規模災害が発生し、公共機関等が所蔵する貴重な史料が被害にあうケースも増えており、各地の史料をデジタルアーカイブとして保存することは喫緊の課題となっています。そのため、図書館が構築するデジタルアーカイブはどうあるべきか検討することを本研究集会の研究主題としました。

慶應義塾大学文学部准教授の福島幸宏氏による基調講演のテーマは、「デジタルアーカイブと図書館サービスの新段階」でした。デジタルアーカイブの定義といった基礎的なことから、デジタル化の際の留意点など具体的な事例まで多岐にわたり、デジタルアーカイブを活用して今後の図書館サービスはどうあるべきかという未来の図書館像についてお話しいただきました。事例発表では、実際に様々な方法でデジタルアーカイブを構築している3館の事例を伺いました。本研究集会の詳細は報告書にまとめておりますので、下記URLからご覧ください。



事例発表の様子

【開催概要】

研究主題：デジタルアーカイブの構築と活用法

配信期間：令和3年11月25日（木）～令和3年12月9日（木）

- 内 容：
- 情勢報告 公益社団法人日本図書館協会 理事長 植松 貞夫 氏
 - 基調講演 「デジタルアーカイブと図書館サービスの新段階」
慶應義塾大学文学部 准教授 福島 幸宏 氏
 - 調査報告 「新型コロナウイルス感染症の図書館対応状況について」
青山学院大学コミュニティ人間科学部 教授 大谷 康晴 氏
 - 事例発表① 「とっとりデジタルコレクション」の取組み
— 他機関との連携による地域資料の公開 —
鳥取県立図書館 資料課長 野沢 敦 氏
 - 事例発表② 「瀬戸内市民図書館のデジタルアーカイブについて」
瀬戸内市民図書館 館長 村上 岳 氏
 - 事例発表③ 「田川市立図書館のデジタルアーカイブについて」
— 「筑豊・田川デジタルアーカイブ」の活用と持続可能な学び活動 —
田川郷土研究会 会長 中野 直毅 氏

報告書掲載 URL：<http://www.ila.or.jp/Portals/0/data/bukai/public/21koukyoutosyokankenkyuusyuukaihoukokusyo.pdf>

（総務企画室）

様々なオンライン事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度は様々な事業が中止を余儀なくされましたが、令和3年度はオンラインの環境が整ってきたこともあり、オンラインで実施可能な事業については中止せずに開催しました。その一部についてご紹介します。

令和3年度福岡県立図書館読書推進講演会

福岡県にある独立系書店の経営に携わる方々（ブックスキューブリック 大井 実氏、MINOU BOOKS 石井 勇氏、taramu books & cafe 村田 幸氏）に「今、独立系書店がアツい！～地域に本屋を～」というテーマで、本や書店、図書館の楽しみ方、まちづくりについてお話しいただき、収録編集した動画を令和3年9月から11月まで当館公式YouTubeチャンネルで公開しました。

参加者からは「特色ある独立系書店が県内各地で頑張っていることを大変うれしく思う」「動画配信による講演会は時間のある時に拝聴できてよかった」など好意的な意見が寄せられました。



座談会収録の様子

(総務企画室)

令和3年度公共図書館等職員レファレンス研修(初級・中級)

令和3年9月に公共図書館等職員レファレンス研修を開催しました。当研修は毎年開催していますが、ZOOMによるオンライン研修は初めての試みです。初級18名、中級9名にご参加いただき、情報検索サービスの講義及び演習を行いました。

ZOOMを利用した画面越しの研修でしたが、実際に演習を行う時間や、受講者間の情報交換の時間を設けることで、講義視聴のみの一方向にとどまらない双方向型研修となりました。「多くの検索ツールの機能を実際に手を動かして理解できた」「他館の職員と交流する機会がほとんどないコロナ禍の中、図書館間交流の場としても意義のある研修だった」と受講者からも大変好評でした。



研修の様子

(資料支援室)

令和3年度音訳等ボランティア研修会

当初は会場開催と後日動画配信の予定でしたが、動画配信のみの開催に変更しました。元NHKアナウンサーの佐々木謙介氏に「文字を声にするときのポイント」というテーマでご講演いただき、収録編集した動画を事前申込のあった受講者に令和4年2月から3月に配信しました。

受講者がいない会場での収録でしたが、事前アンケートで寄せられた質問への回答を交えながらお話しいただき、受講者からは「質問にも丁寧に答えていただき、参考になった」「自宅で視聴できてよかった」などの声が寄せられました。



講演収録の様子

(資料支援室)

バリアフリー図書読書体験会の開催

障がい等の有無にかかわらず誰もが本に親しめる社会を目指して、令和元年度に読書バリアフリー法という法律ができました。

「紙の本の読書が困難な方にも読書を楽しんでいただきたい、そして多くの方にバリアフリー図書の存在を知っていただきたい。」そんな思いから、県立図書館は、福岡点字図書館や県内のバリアフリー図書を提供する施設で作るネットワークと連携して、令和3年12月11日（土）にバリアフリー図書読書体験会を開催しました。

近年では、パソコンやタブレット端末を利用して読むバリアフリーの本「デージー図書」が普及してきています。デージー図書は「聴く」ことができる電子書籍の一種ですが、「聴きながら読む」、「色や大きさなどを変えて読みやすい形式で読む」ことができるものもあります。

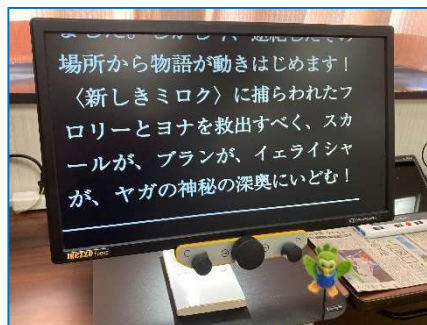
また、点字の本、さわって楽しむ本、大きな字で読める本、内容が分かりやすく書かれている本（LLブック）などの、様々な「読みづらさ」を解消できる可能性のある本が出版されています。

体験会では、これらのバリアフリー図書だけでなく、最新の読書補助用具なども集めて展示し、参加者に実際に体験してもらいました。

体験後は、電子機器を使った新しい読書の方法や、読みたい本の探し方、利用するための登録方法なども案内したところです。

また、当事者だけでなく、県内外の行政・図書館関係者の見学を受け入れ、地域での読書バリアフリーの取組の参考にさせていただきました。地域や学校で困っている人・子どもたちを支えたいと、熱心に見学・聞き取りをされる自治体の担当者や学校図書館職員が多くいらっしゃいました。

チラシ

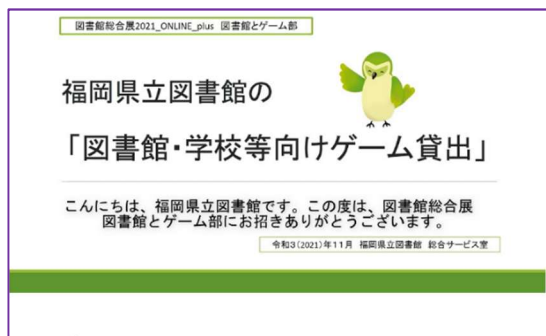


(総合サービス室)

図書館・学校等向けゲーム貸出を始めました！



貸出用ゲームの一部



紹介動画の一部

近年、ボードゲーム等を使った読書推進活動が注目を集めています。

そこで、県立図書館は令和3年8月30日より青少年サービスの一環として、「図書館・学校等向けゲーム貸出」事業を開始しました。

全国初の事例ということで、国立国会図書館のカレントアウェアネスに取り上げられたほか、図書館総合展の図書館とゲーム部 YouTube チャンネルにも紹介動画が掲載されています。

県内の公共図書館・学校図書館はもちろん、聴覚特別支援学校やフリースクール、児童自立支援施設にも利用されています（令和4年3月8日時点で延べ28施設・76点の利用）。

アンケートによると、催事のほか、児童・生徒の親睦・コミュニケーション向上に役立てられているようです。

（総合サービス室）

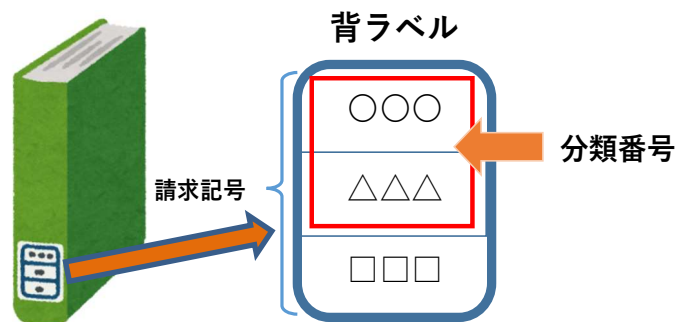
図書の分類をNDC10版に変更しています

当館では令和2年4月1日から、図書の分類を『日本十進分類法』（NDC）新訂8版から10版へ移行しました。

●『日本十進分類法』（NDC）とは？

図書を分類して書棚に並べるためのルールで、多くの図書館が採用しています。

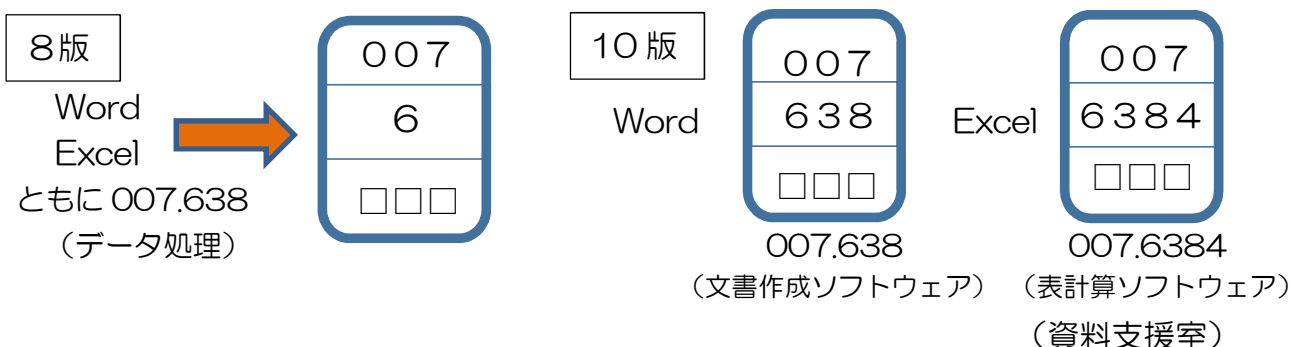
NDC記載の「分類番号」をもとに、背ラベルの「請求番号」を決めます。



●10版への移行で何が変わった？

図書館の本はNDCに沿って分野ごとに並んでいます。10版は8版より詳細に分類されるため、本の並びも分野で細かくまとまり、より探しやすくなりました。

（例）007（情報学）のうちWord、Excelに関する本



レファレンス協同データベース 登録事例の紹介

福岡県立図書館は、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べ物のためのデータベース「レファレンス協同データベース」に参加しています。

(<https://crd.ndl.go.jp/reference/>)

レファレンス協同データベースでは、参加館のレファレンス事例、調べ方マニュアル等を、誰でもインターネットで閲覧する事ができます。

お調べ物の参考となる事例があるかもしれませんので、どうぞご利用ください。



「レファ協 PickUP!」に選ばれた事例をご紹介します。

質問：「人一倍、努力する」と言うが、人一倍の努力であれば、数学的に考えれば他人と同じだけの努力でしかない。意味的には二倍の努力だと思えるのだが、一倍というのは何故か。

回答：『悩ましい国語辞典』（請求記号 810/4/397）p.222-223 に下記の記述あり。

【人一倍】

「一倍」だと数学的には同等のことでは？(中略)『日本国語大辞典』によれば、「一倍」は「二倍の古い言い方で、ある数量にそれと同じだけのものを加えること」とある。一番古い用例は奈良時代のものなので、かなり古くから2倍の意味で用いられていたことがわかる。(中略)しかし、実際の日常語としてはそんな厳密なものではなかったのかもしれない。だから、やがてそれが転じて、「人一倍」のように正確な数量を表すのではなく、ほかと比べて程度が大きいという、「いっそう」「ずっと」の意味になったものと思われる。



レファレンス協同データベース イメージキャラクター れはっち

(資料支援室)

社会教育功労者表彰、福岡県教育文化表彰

○社会教育功労者表彰

ブックトークボランティア「本の楽しさおとどけ便」の松尾有子氏が、令和3年度社会教育功労者表彰（文部科学大臣表彰）と令和3年度全国公共図書館協議会表彰を受賞され、賞状伝達式を当館で行いました。松尾氏は、平成19年から平成29年まで福岡県立図書館協議会委員を務められました。ブックトークボランティア「本の楽しさおとどけ便」（平成12年創立）の創立メンバーとして福岡県内の小・中学校等から数々の依頼を受けてブックトークの実演に携わってきた経験を活かし、学校支援をはじめ図書館事業に関して貴重な提言を行い、本県の図書館行政の振興に寄与されました。



「本の楽しさおとどけ便」の松尾有子氏

○福岡県教育文化表彰

福岡県立図書館音訳の会の峰恵氏が、令和3年度福岡県教育文化表彰（福岡県教育委員会表彰）を受賞されました。峰氏は、福岡県立図書館音訳の会の音訳指導員として、音訳作業の中核となって活躍されるとともに、平成29年から現在まで福岡県立図書館協議会委員として、障がいのある方が利用しやすい図書館サービスに関する意見や助言をボランティアの立場から行うなど、本県の社会教育の振興に貢献されました。

(総務企画室)

子ども図書館を紹介する動画を公開しました！

子ども図書館では、子ども図書館を紹介する動画を制作しました。絵本や知識の本などのコーナーから、おはなしの部屋や検索機まで子ども図書館のすべてを、当館マスコットキャラクターのふっきょんが案内してくれます。

この動画は当館公式 YouTube チャンネルで視聴できます。ぜひ下記 URL からご覧ください。

URL : <https://youtu.be/5SpCSWVuL6Y>



紹介動画の一部



(総合サービス室)

読書推進大会（行橋市大会）の開催

県民の読書活動やボランティア活動の推進を図るため、毎年県内各地を会場として実施されている読書推進大会が、令和3年11月6日（土）にリブリオ行橋（行橋市）で開催されました。

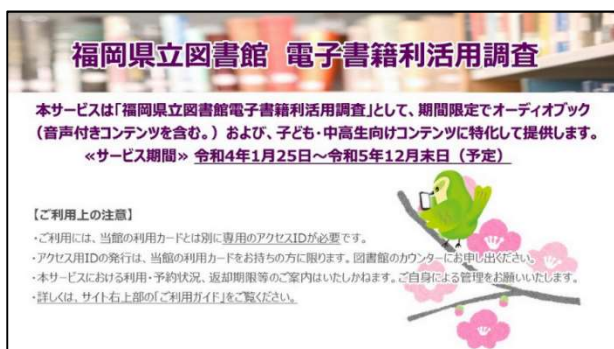
全国優良読書グループ表彰（(公社)読書推進運動協議会）の表彰式が行われ、受賞した延永小学校図書ボランティア「としよママ」の皆さんによるおはなし会が披露されました。また、福岡市在住の直木賞作家東山彰良氏による「人生のつぎの扉を開けてくれる本」と題した講演会も行われ、本との出会いや読書が豊かな人生の糧となることの理解を深め、読書活動の充実を図ることができました。



「としよママ」の皆さん

(総務企画室)

電子書籍「TRC-DL & LibrariE」を導入しました！



当館ホームページ

令和2年度に電子書籍サービスとしてKinoDen（キノデン）を導入して以降、県立図書館では、図書館に足を運ばなくても利用でき、紙と電子双方のメリットを活用したハイブリッドな図書館サービスの強化に取り組んでいます。

令和3年度から「電子書籍利活用調査」として、バリアフリーサービス強化と子ども向け電子書籍サービスの検証のため、オーディオブックの提供を開始しました。オーディオブックとは、ナレーターや声優などによって朗読された「聴く本」です。読み上げ機能と異なり、アクセントや言葉の抑揚が自然です。リッチコンテンツと呼ばれる映像やBGMがついたもの、紙芝居感覚で楽しめるものもあります。このサービスは令和5年12月まで期間限定のサービスとなっています。

KinoDen と合わせて是非ご利用ください。

(資料支援室)

福岡県内公共図書館デジタルアーカイブ紹介

令和3年度全国公共図書館研究集会に併せて、11月に県内市町村立図書館のデジタルアーカイブ紹介展示を行いました。県内では当館のほか6館が公開しています。

大牟田市三池炭鉱歴史資料デジタルアーカイブ

世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の一部に登録された三池炭鉱関連資産についてのデジタルアーカイブです



絵葉書 三池宮ノ原坑

リブリオ行橋 行橋市デジタルアーカイブ

『行橋市史』の一部や幕末の行橋市街地を描いた絵図、行橋市増田美術館の名品の一部が閲覧できます



「大橋村 行事村 宮市村見取図」(部分)

春日市民図書館 写真でたどるなつかしい春日

写真に特化したデジタルアーカイブで、春日市の過去と現在の写真、解説が閲覧できます



福岡市総合図書館 コレクション紹介 古文書資料

2017年から年に1、2点の所蔵資料を解説付きで紹介しています



伊丹資料 資料番号 1019

田川市立図書館 筑豊・田川デジタルアーカイブ

年表、町のトピックス、文化、地図、資料など田川地方の歴史を包括的に学ぶことができます



『小倉鉄道沿線名所圖繪』(部分)(昭和3年)

豊前市立図書館 郷土資料

『宇島鉄道沿線案内』『数字で見る築上郡』『明治18年広島熊本両鎮台諸兵大演習』『三毛門村史』の4点が閲覧できます



デジタルライブラリ公開資料

令和3年3月にリニューアルした「福岡県立図書館デジタルライブラリ」。おかげさまで、「見やすい!」「使いやすい!」と、ご好評をいただいております。今回、新しく公開した資料をご紹介します。

○昭和28年西日本豪雨水害資料(「近代以降のふくおか」)

- 『昭和28年浮羽郡水害写真帳』
- 『八女郡水害誌 昭和二十八年』
- 『西日本豪雨水害写真集』など、全19点



八女郡災害図『八女郡水害誌』



『開館100周年 動画』

○開館100周年(2018)記念資料(「福岡県立図書館の歴史」)

- 『福岡県立図書館開館100周年記念誌』
- 『開館100周年 動画』など、全4点

(ふくおか資料室)

編集・発行/令和4年3月25日 福岡県立図書館
〒812-8651 福岡市東区箱崎1丁目41-12
TEL (092) 641-1123 (代) FAX (092) 641-1127
ホームページ <https://www2.lib.pref.fukuoka.jp/> Twitter:@fukuoka_preflib

福岡県立図書館キャラクター
「ふっきょん」

